漁況海況予報事業
（海洋観測調査）

金城清昭・嘉数　清・兼浜安信・川崎一男
喜屋武俊彦・山本隆司・海老沢明彦

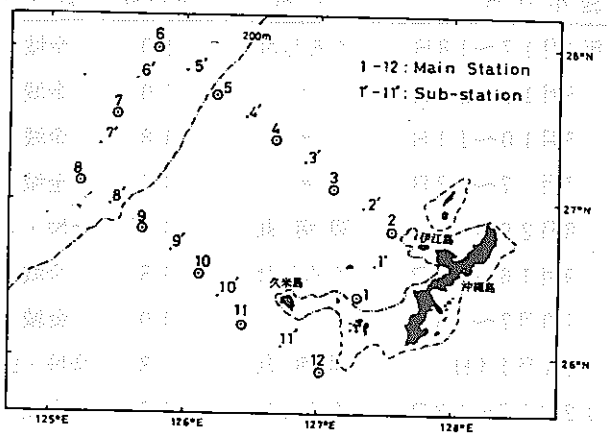
本調査によって得られた観測結果の詳細については、昭和５６年度漁況海況予報事業結果報告書として別途報告するため、ここではその概要について述べる。

1. 目的および内容

沖縄島周辺海域に沖合定線および沿岸定線を設け、定期的に海洋観測を実施することによって、水温・塩分量・表面流況等の海況データを集収し、海況の現況および変動傾向を把握する。さらに情報交換推進事業と相まって、漁業者へ海況情報を提供することによって、漁業の合理的操業に資することを目的とする。

昭和５６年度は、沖合定線観測を４回、沿岸定線観測を１２回実施した。

各定線は図１および図２に、実施状況は表１および２に示した。

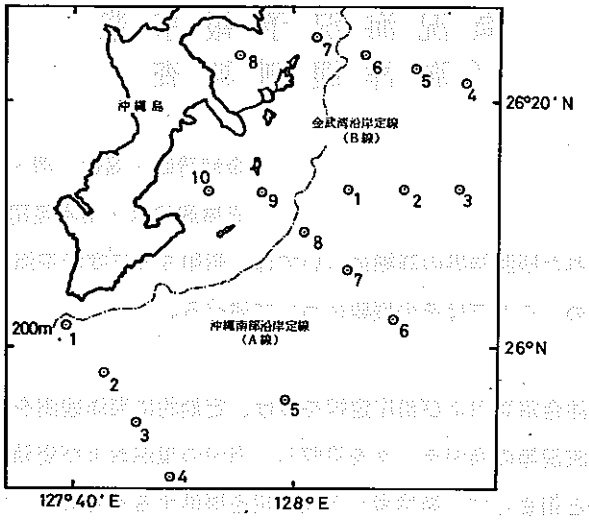


図－１　沖　合　定　線　図

表－１　沖合定線実施状況

航次	実施年月日	船名	主定点数	調査員	補助点数
1	昭和５６年５月１１～１３日	図南丸	１２	兼浜・山本・海老沢	１１
2	〃　８月２４～２６日	〃	１２	金城・大島*	１１
3	〃　１１月１１～１３日	〃	１２	金城・山本	１１
4	昭和５７年２月　２～　４日	〃	１２	金城・宮城*・大島*	１１

*沖縄県水産試験場漁業調査船　くろしお



図－2　沿　岸　定　線　図

表－2　沿岸定線調査実施状況

航次	実施年月日	船名	定点数	調査員	備考**
1	昭和56年4月17～18日	くろしお	10	金城	A線
2	〃　5月19～20日	〃	10	金城	A線
3	〃　6月10～11日	〃	18	金城	A・B線
4	〃　7月　7～　8日	〃	10	金城	A線
5	〃　8月26日	図南丸	10	金城・大島*	A線
6	〃　9月16～17日	くろしお	18	金城	A・B線
7	〃　10月7～　8日		10	金城	A線
8	〃　11月14日	図南丸	8	金城・山本	B線
9	〃　12月17～18日	くろしお	10	金城	A線
10	昭和57年1月　8～　9日	〃	10	金城	A線
11	〃　2月　4～　5日	図南丸	10	金城・宮城*・大島*	A線
12	〃　3月16～17日	くろしお	18	金城	A・B線

*　沖縄県水産試験場漁業調査船　くろしお
**　A線とは沖縄南部、B線とは金武湾沿岸定線を意味する。

2. 成果の概要

(1) 表面流況

沖縄島西岸の南下流は、前年は伊江島北西方で強勢であったが、今年は久米島周辺で強勢であった。また、5・8月の南下流の勢力は前年同期に比べ弱勢であった。11月には久米島南方に1.7ノットの北上流が観測された。沖縄島東沿岸では、4・5・8・10月に1ノット内外の南西流が卓越してみられた。

(2) 沖縄島沿岸水温

表面水温は５・６月に平年比やや低目であったが、７月以降平年並に回復し、１０月には高目、１１～１２月に低目、１月に高目に経過したが、２月以降平年並となった。中層水温（100～150m層水温）は、４月から１２月まで平年比低目からやや低目であったが、１月に高目となり、２月以降平年並に経過した。また、１２月から１月に表面および中層水温とも１～２℃の昇温がみられたが、その原因については明確でない。

(3) 沖縄島沿岸塩分量

表面塩分量は、４～６月に平年比高目、７月に低目、８～１２月にやや高目から高目となり、１・２月にやや低目となったが、３月に平年並となった。中層塩分量は、４～１０月まで平年比高目であったが、１１月以降は平年並に経過した。